# 報告事項

## 2020 年度事業報告

### Ⅰ　総括

2020 年度は、新型コロナウィルスの感染が収束をみせず、日本建築家協会（JIA）の事業活動は大きな影響を受けました。一部のシンポジウムやセミナー、会議等は開催の中止や延期を余儀なくされましたが、その中でも、オンライン（Web 会議、動画配信システム等）の活用をはじめ、感染防止対策を講じて公益活動の実施に努めました。

一方で感染のパンデミック化は、建築・都市・環境のあり方、そして建築家と社会との関係を再考する契機となりました。建築界や社会に与える影響を把握し、今後の対応を検討するとともに、本年度の緊急かつ具体的な施策として、経済的な影響を受ける学生への支援を実施しました。

また、地球規模の感染拡大に伴って、SDGs（国連が採択した「持続可能な開発目標」）達成はさらに重要性が増すものと考えています。本年度計画の「JIA・SDGs 建築フォーラム」の開催は次年度に延期しましたが、本番に先立つ 3 月に「JIA・SDGs 建築フォーラム【プレフォーラム】」を開催して議論を深めました。

引き続き、①会員の知見レベルの向上や情報交流の拡充による「JIA 建築家のリーダーシップ強化」へのアシスト、②建築関連の法・制度等に関する問題への適切な対応による「建築家の行政的課題」の解決推進、そして③国際交流活動の充実による「建築界を代表する外交的役割」の効果的な遂行という、3 つのテーマの実践に向けた活動に注力しています。

[2020 年度の重点施策と活動]

今年度に実施した重点施策と活動は以下の通りです。

**1.地域に根ざした公益事業の拡充**

まちづくり活動への支援、環境の保全と創造、価値ある建築物の保存再生、建築文化の発展等を目的に、支部・地域会を主体とした公益活動を通じ、地域社会とに根ざしたネットワークの維持拡充に努めています。

本年度は、コロナ禍の影響により、集客型イベントの開催は見合わせたものもありましたが、オンラインの活用等によるセミナーや各種表彰事業、学生コンクール、市民への広報活動等を実施しました。また、頻繁に発生する地震や水害の被災地への支援や、将来にわたって貴重な建築物や環境の保存再生に関する支援・提案活動にも力を入れました。

**2.教育・育成機能、情報発信力の強化**

「JIA 建築家のリーダーシップ強化」のために、各種教育・育成プログラムの拡充と情報発信力の強化を推進しています。

本年度は、JIA の本部・支部・地域会等が実施している各種教育プログラムを「JIA スクール」ブランドとしてさらなる認知の向上を進めることとに加え、「建築 CPD 情報提供制度」（建築技術教育普及センター主導）のシステム見直しに合わせて、JIA の継続職能教育（CPD）のシステムと事務手続きの改良を行いました。

また、建築界の未来を担う学生の育成を重視し、コロナ禍に対する施策として経済的な影響を受ける学生への助成金の交付事業を実施しました。社会の DX（デジタルトランスフォーメーション）が急速に進展する中、オンライン活用等による内外に対する JIA の情報システムの整備を進めています。

3.業務環境の変化への対応

近年の建築市場の変化、建築生産方式の多様化、IT 等の関連技術の急速な進展等に伴い、「建築家の行政的課題」への対応を重視しています。

本年度は、CM（コンストラクション・マネジメント）方式の導入に関して、建築設計三会（JIA、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会）が連携して提出した意見表明が、国交省による CM 方式活用ガイドラインに反映されました。BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の普及促進に関しては、同三会共同で「設計 BIM ワークフローガイドライン 建築設計三会 提言（案）」を取りまとめました。

また、2020 年4月施行の「改正意匠法」に関する特許庁と意見交換を開催し、設計業務報酬基準(告示 98 号)の改定に向けた検討にも着手しました。「2050 カーボンニュートラル」といった環境・エネルギー問題に関する活動を進めています。

4.建築界の国際化に向けた活動

「建築界を代表する外交的役割」の効果的な遂行のために、国際ネットワークの維持・強化に努めています。

本年度は、コロナ禍の影響で、現地での国際会議等には参加できませんでしたが、JIA が加盟している UIA(国際建築家連盟）、ARCASIA(アジア建築家評議会)の両団体、及び海外の建築関連団体とのオンラインによる多くの会議に参加し、海外との情報交流を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症に関連する建築情報を国内外に向けて発信するホームページ「JIA 新型コロナウイルス感染症建築情報ハブ」を開設しました。さらに海外で活躍する日本人建築家から現地の話を伺うセミナー「《越境建築家》との対話シリーズ」を開催しました。

5.SDGs に関する取組み

国際連合が 2015 年に採択した SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、建築家および JIA が広範な分野の課題に国際的な視野で取り組むことは大きな意義があると考えています。

本年度は、12 月に「JIA・SDGs 建築フォーラム」の開催を計画していましたが、コロナ禍により開催延期とせざるを得ず、3 月に先立つイベントとして「JIA・SDGs 建築フォーラム【プレフォーラム】」を開催しました。また、UIA と加盟団体が取りまとめた「17 の持続可能な開発目標(SDGs)に対する建築ガイド第 2 巻」の和訳版を JIA ホームページ上に公開しました。

[2020 年度分野別の主な事業活動]

2020 年度の分野別の主な事業活動は以下の通りです。委員会・全国会議等の活動報告および支部の活動報告については別途記載しています。

## 1.建築環境整備事業

### 1）環境保全活動

住宅をはじめとする建築物や都市の環境保全、省エネルギー化の推進を目的に、市民や関係官庁への普及広報活動を行いました。再生可能エネルギー利用促進、木材の利用促進等に関するシンポジウム・セミナーの開催や改正省エネ法の普及に関する国交省への支援等を実施しました。

### 2）まちづくり・建築物保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざして、セミナーやシンポジウムの開催等、地域に密着した取組みを実施しました。また、価値の高い建築物の保存再生のため、関係行政に対する提言・支援を行うとともに、「文化財修復塾」制度の運営、他団体と連携して建築物の調査等の活動を実施しました。

### 3）災害対策活動

2011 年発生の東日本大震災の復興を含め、頻発する地震や水害に対して、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した支援を続けています。なお、大規模な地震（震度６弱以上）等の発生に対しては、災害対策本部を設置し、自治体等と協力して支援活動を行う体制をとっています。

### 4）建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会の建築相談委員会や建築相談室が住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

## 2.建築文化育成・交流事業

### 1）表彰活動

「JIA日本建築大賞・JIA優秀建築賞」「JIA新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」を主催しました。受賞作品を収録した「JIA 建築年鑑」の出版を予定しています。支部・地域会による地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

### 2）交流活動

広く一般市民や建築関係者に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部・地域会主体に、コロナ禍対策を十分に検討した上で、建築物やまちなみの見学会、建築文化に関するシンポジウム、講習会、建築作品の展示会を開催し、建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

### 3）国際協力活動

UIA、ARCASIA 及び海外の建築関連団体（本年度は王立英国建築家協会）とのオンライン会議に参加し、海外との情報交流を行いました。また、「JIA 新型コロナウイルス感染症建築情報ハブ」を開設し、海外で活躍する日本人建築家を講師としたセミナー「《越境建築家》との対話シリーズ」を開催しました。

### 4）教育・育成活動

学生に対する教育・育成活動として、協力設計事務所での短期実習を行う「オープンデス

ク」の実施やインターンシップへの支援、会員や建築関係者等に向けて、各支部等による「建築セミナー」や各種講演会の開催といった教育・育成活動を実施しました。また、コロナ禍に対する緊急かつ具体的な施策として、経済的な影響を受ける学生への支援を行いました。

## 3.建築制度整備事業

### 1）継続職能研修（CPD）制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定（本年度の認定プログラム総数 1,381 件）をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、インターネット受講可能プログラムの拡大（2021 年 3 月末時点コンテンツ数 54 件）や管理システムの高度化を進めました。

### 2）建築家資格制度運営

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました。JIA の正会員全員を登録建築家へ導くという目標達成のため、PR 活動の強化や資格制度の整備を行いました。（2021 年 4 月 1 日現在建築家資格制度登録者数見込み 1,663 人）。

### 3）建築関連の法・制度の調査研究・提言

国交省主導の「CM 方式（ピュア型）の制度的枠組みに関する検討会」や「建築 BIM 推進会議」、さらに国交省、東京都、神奈川県及び建築設計三団体で構成する「公共建築設計懇談会」等へ参加し、建築の質の向上の観点から提案を実施しました。BIM に関しては、同三会共同で「設計 BIM ワークフローガイドライン建築設計三会 提言（案）」を取りまとめました。

また、2020 年4月施行の「改正意匠法」に関する特許庁と意見交換を開催したほか、設計業務報酬基準(告示 98 号)の改定に向けた検討にも着手しました。「2050 カーボンニュートラル」といった環境・エネルギー問題に関する活動を進めています。

## Ⅱ　2020 年度通常総会

2020 年度通常総会を 6 月 26 日午後 2 時 30 分より 3 時 30 分まで、建築家会館1階大ホール（東京）にて開催しました。正会員数 3,475 名の内、書面表決者 1,289 名、委任状提出者 1,108 名を含む出席者総数 2,411 名により総会が成立し、議長に森暢郎会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

［2020 年度総会議案］

第1号議案　2019 年度貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）、財産目録の承認の件

第2号議案　準会員の入会金・会費一部改正の件

第3号議案　理事及び監事の選任の件

第4号議案　名誉会員選任の件

第5号議案　定款の一部変更（第 26 条 7）の件

## Ⅲ　2020 年度理事会

2020 年度理事会を、zoom によるオンラインで7回、書面審議4回の合計 11 回開催しました。 各理事会の議事は以下の通りです。

［2020 年度理事会議事］

1）第 266 回理事会（書面）（4 月 17 日開催）

①入退会者について

2）第 267 回理事会（書面）（5 月 11 日開催）

①建築系学生への支援事業の実施について

3）第 268 回理事会（オンライン）（6 月 1 日開催）

①入退会者について

②委員会構成について

③組織再編特別委員会廃止について

④2020 年度通常総会開催及び議案について

⑤支部規約改正（関東甲信越支部・四国支部）について

⑥JIA・SDGs建築フォーラム開催延期について

⑦事務局長就任について

⑧活動及び業務執行状況報告

4）第 269 回理事会（オンライン）（6 月 26 日開催）

①会長、副会長及び支部長選任について

②入退会者について

③一級建築士定期講習会開催中止に伴う入会手続きの取扱いについて

④委員会・全国会議委員等就任について（業務委員会、CPD 評議会、JIA・SDGs 建築フォーラム実行委員会、環境会議、建築相談会議、保存再生会議、まちづくり会議、災害対策会議、建築家認定評議会）

⑤活動及び業務執行状況報告

5）第 270 回理事会（書面）（7 月 22 日開催）

①入退会者について

6）第 271 回理事会（オンライン）（8 月 27 日開催）

①入退会者について

②委員会・全国会議等委員就任について（選挙管理委員会、業務委員会、財務委員会、環境会議、建築相談会議、建築家認定評議会）

③「知的生産者の公共調達に関する法整備」に対する JIA の対応について

④活動及び業務執行状況報告

7）第 272 回理事会（オンライン）（10 月 8 日開催）

①入退会者について

②「正会員資格要件に関する準用基準」改定について

③委員会委員就任について（財務委員会、国際委員会）

④関東甲信越支部学生会員入会申込書書式改定について

⑤建築家資格制度規則等改訂について

⑥活動及び業務執行状況報告

8）第 273 回理事会（書面）（11 月 10 日開催）

①入退会者について

9）第 274 回理事会（オンライン）（12 月 15 日開催）

①入退会者について

②委員会委員就任について（財務委員会）

③「JIA 公益事業活動助成」採択について

④建築家資格制度マニュアル改訂について

⑤活動及び業務執行状況報告

10）第 275 回理事会（オンライン）（2 月 4 日開催）

①入退会者について

②委員会委員就任について（CPD 評議会）

③「法人協力会員資格要件に関する準用基準」について

④活動及び業務執行状況報告

11）第 276 回理事会（オンライン）（3 月 18 日開催）

①入退会者について

②会員資格喪失者について

③委員会委員就任について（名誉会員選考委員会、JIA・SDGsフォーラム実行委員会）

④フェロー会員について

⑤2021 年度事業計画（案）及び予算（案）について

⑥活動及び業務執行状況報告

## Ⅳ　建築家認定評議会等

### 1. 本部建築家認定評議会

新型コロナウイルスの影響で第 1 回第 2 回は書面審議、第 3 回は Zoom によるオンライン方式で認定評議会を開催しました。各回ともすべての議案について以下のとおり承認されました。

1）第 1 回臨時認定評議会（2020 年 8 月 18 日回答）

・議長選出
・建築家資格制度規則、細則、マニュアル(3 種)改定案の決裁
2)第2回臨時認定評議会(2020 年 11 月 20 日回答)
・建築家資格制度規則、細則、マニュアル(3 種)改定修正案の決裁
・登録建築家登録削除(2 名)
3)第3回定期認定評議会(2021 年 3 月 24 日開催)
・登録建築家の認定、更新、再登録について
新規登録　申請者 27 名　合格者 26 名
更新　申請者 289 名　合格者 287 名 (更新率 74.7%)
再登録　申請者 44 名　合格者 41 名
登録建築家総数は 1, 663 名となり昨年より 40 名の減少となりました。正会員に占める登録建築家の割合は 44.0%で、前年並みです。
なお、本年度末までの登録建築家認定総数は、3, 535 名(物故者含む)。
・公開議事録の承認
・資格制度についての意見交換
制度のあり方、今後について様々な意見がでたが、引き続き議論していくことで一致しました。

**2. 本部建築家資格制度実務委員会**

本部建築家資格制度実務委員会は、計 12 回職能・資格制度委員会と合同委員会を開催しました。その他、メールによる稟議を 6 回行いました。主な作業は以下のとおりです。
・建築家資格制度規則、細則、マニュアル(3 種)の改定作業及び理事会対応
・建築家資格制度関連書式類の改定作業
・ホームページ公開の登録申請説明書の改定作業
・新規登録、更新、再登録対象JIA会員への、申請呼掛け、説明メールの配信
・2020 年度第 1 回、第 2 回認定評議会(メール審議)の開催準備、補佐
・支部実務委員会と協働し、新規、更新、再登録申請者の調査、確認作業
・2020 年度第 3 回認定評議会(オンライン開催)の準備、補佐
・職能・資格制度委員会と協働し、資格制度のあり方、専権問題、実務訓練、制度のプロモート、登録建築家誓約書などについて議論継続中(職能・資格制度委員会報告参照)
・引続き、資格制度規程類の再改定について準備

## V 本部役員候補者選挙

10 月 15 日発行の「JIA MAGAZINE 380 号」で 2021 年度本部役員候補者選挙告示を行い、12 月 15 日に役員候補者の確定について第 2 回告示を行いました。

[2021 年度役員候補者(2021 年度総会にて役員選任を審議する予定)]

| (氏 名) | | (所属支部) |
|---|---|---|
| 【理事候補者】 | | |
| 上垣内伸一 | (再任) | 関東甲信越支部 |
| 森 暢郎 | (再任) | 関東甲信越支部 |
| 榎本 雅夫 | | 関東甲信越支部 |
| 林 美樹 | (再任) | 関東甲信越支部 |
| 浅井 裕雄 | | 東海支部 |
| 堂田 重明 | | 北陸支部 |

島　桐子　　（再任）　　近畿支部
岡田　良子　　近畿支部
作田耕一朗　　九州支部
伊良波朝義　　（再任）　　沖縄支部

【監事候補者】

赤羽　吉人　　関東甲信越支部

## Ⅵ　委員会活動等報告

### 1．委員会活動

#### 1）職能・資格制度委員会

JIA 創設の意義そのものである建築家資格制度の会員への周知と理解、よりよい制度にするための意見交換に主眼を置き、計 12 回開催しました。 作業面の相互支援と、より多くのメンバーによる研究、合議のため、本部建築家資格制度実務委員会と合同開催としています。

①制度の周知

コロナ禍で各支部行脚というわけにはいきませんでしたが、東海支部、関東甲信越支部常任幹事会、北海道支部と、四国支部では 2 回目になる資格制度セミナーを開催しました。実務訓練と、制度の第三者性の重要性などを説明し、意見の収集に努めてきました。新年度中には未開催の東北、北陸、中国、九州、沖縄支部でも開催する予定です。

②作業部会

あ.資格制度の根本問題　い.専権問題　う.実務訓練部会　え.J5＋各支部プロモート　お.登録建築家通信　か.民間ライセンス研究＋誓約書　き.UIA アコードの各ガイダンスの和訳　く.各規程類改訂

#### 2）業務委員会

今年度の業務委員会は、コロナ禍の影響もあり、メールでの意見交換、報告を中心に随時委員会を開催しながら活動を展開しました。

・「COVID-19」への対応

各支部長より意見聴取を行い会員の状況を把握し、情報共有を図りました。

・「地方公共団体における ピュア型CM方式 活用ガイドライン」への対応

「CM 方式（ピュア型）の制度的枠組みに関する検討会」に参加し、意見照会に対応しました。計 8 回の検討会を経て、漸く 20 年 9 月にガイドラインが公表されています。

・「国土交通省告示 98 号」への対応

改正以降 2 年を経過し、改めて課題を整理し、国土交通省と意見交換を行いました。その後、課題への対応方針を取り纏め三会（JIA、士会連合会、日事連）にて共有を図りました。

・「改正意匠法」への対応

意匠法が改正され 1 年が経過し、出願・登録件数が増加し、様々な課題も浮き彫りとなりました。意見交換会にて特許庁に懸念事項を伝えています。適切な運用に関して、今後も継続対応が必要であると考えています。

次年度は、告示 98 号の見直し、改正意匠法への対応を中心に、様々な政策が動き始めるものとみられます。三会の意見集約を主導し、より強力に意見発信していきたいと考えます。

＜ワーキンググループ活動＞

①建賠 WG

事故防止のため、また、会員の負担軽減のため、主として以下の項目を実施しました。

・保険の内容改定

①サイバーリスク補償オプションの追加（2020 年 4 月より）

②構造基準未達オプションの補償対象に 4 号建築物を追加（2021 年 4 月より）

③建築基準法等未達オプションの対象法令を 63 から 81 に拡大（2021 年 4 月より）

④他団体保険から JIA ケンバイへの移行の際の、無事故期間の継承（2021 年 4 月より）

・北海道支部、東海支部、中国支部、沖縄支部、茨城地域会、福岡地域会、住宅部会とケンバイ勉強会を web 会議で実施し、建賠の仕組み、事故事例等を説明。（ケンバイ勉強会については各支部2年に 1 度開催を目安としており、2021 年度は 2020 年度未開催の支部にて開催予定）

・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険図解事故例集（設備編 part2）」の発行に協力。

②約款 WG

「七会連合工事請負契約約款委員会」及び「四会連合建築設計・監理等委託契約約款研究会」活動と連動して WG を年 11 回開催し検討協議を重ね具体的な意見提案を行った。また両委員会委員として活動に参画。

・改正民法に伴い両約款を改正、両改正約款の解説書を発行。

・両約款の調査研究活動としてマンション修繕工事契約約款の制定、その他の既刊約款の再検討に参画。

③仕様書 WG

本 WG では、国土交通省大臣官房官庁営繕部からの「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」等への改定意見募集に窓口として対応する。本年度は令和 4 年版に対し以下の活動を実施した。

・国土交通省より建築工事他（建築工事新築、建築工事改修、木造工事）の意見徴収を求められ、WG メンバーにて現行仕様書内容の確認、意見の洗い出しを行い、前回改定時意見の再録を中心に取りまとめを実施した。提出は令和 2 年 7 月 3 日。

・国土交通省より建築工事の改定一次案データ（建築工事新築、建築工事改修、木造工事）を受領し、WG メンバーにて改定内容の確認、修正案の洗い出しを行い、提案等の取りまとめを実施した。提出は令和 3 年 3 月 29 日。

・今秋、改定二次案への対応を予定しています。

JIA 業務委員会での仕様書 WG メンバーの確定作業（従前メンバー7 名＋新規メンバー2 名、合計 9 名）を実施した。今年度は Web での会議開催となりました。

④パンデミック対応 WG

新型コロナウイルス感染症がもたらす建築家/設計事務所への影響を考察し、ウイズ/アフターコロナにおけるそれら及び JIA のあり方を提言としてまとめました。

支部長や委員会等へのヒアリング、全支部・地域会へのアンケート実施等から、JIA が取り組むべき課題の絞り込みと提言を行い、来年度の具体的な実施に繋げます。

・オンライン/リモート対応への基盤整備

・上記を踏まえた新しい JIA 建築家大会等のあり方

・会員間（学生を含む）の新しい交流とネットワーク化・支援

3）財務委員会

JIA の 2020 年度の活動は新型コロナによって大きな影響を受けました。特に支部・地域会への影響が大きかったようです。多くの事業・活動が中止になったために JIA 全体の財務状況は多少改善する見込みですが、正会員数はほぼ毎年 100 人以上減少しています。

財務委員会では正会員数 3000 人時代を見越して様々な検討を行って来ましたが、それは遠い未来の話ではなく、数年先までに迫って来ています。コロナ禍という変数が増え予測は難しさを増していますが、今年度も本部の近年の財務状況の検討を行って来ました。2021 年度には理事会に中・長期の財務予測を報告したいと考えています。

4）総務委員会

総務委員会の主な 3 つの担務について報告します。1 つ目の「会員管理」に係る会員動勢では、2021 年 4 月理事会での正会員数が 3442 名で 2020 年 4 月から 83 名減少しましたが、減少率が昨年より下げ止まって約 2.4％になりました。なお準会員は学生会員（92 名）を除き 317 名です。

2 つ目は「諸規定類の整備等」です。正会員資格要件に関する準用基準の改定、法人協力会員資格要件に関する準用基準の制定、会員異動届取扱いの制定については議論を尽くし、理事会で承認されました。そして昨年度からの継続協議である建築家資格制度規則・細則及び同マニュアルの改定について協議を重ね、理事会で承認されました。次年度に持ち越しになりましたが、委員会規程改定及び同運用基準制定などについて検討を進めています。

3 つ目の「組織の横断的調整」ですが、上記の委員会規程改定などの検討においては、多くの委員会等と意見交換を実施して運用基準制定の参考にしました。また文書管理に係る署名・押印の取扱いについて検討しています。

＜ワーキンググループ活動＞

①苦情対応 WG

各支部における苦情対応の実態把握に努め、規約及び苦情対応フローの見直しの必要性検討を行いました。その過程において、苦情受付判断の明確化による受付業務効率化のため、「苦情相談受付票」を新たに作成しました。また、苦情の内容によって、「建築相談」と連携を行うことを模索しましたが、コロナ禍の影響で打ち合わせが滞り、具体的な方針策定に至ることができませんでした。

②小規模建築会議設置準備 WG

2019 年 6 月の組織再編特別委員会にて JIA 住宅等小規模会議設立が発案され、会議体の立上げの準備をするワーキンググループという位置付けとして活動することが目的でした。

計 6 回の会議を重ね、会議の目的、取り組むべき課題を明らかにし、4/13 の理事会で設立が可決されました。新年度からは JIA 住宅等小規模連携会議として活動を全国支部、地域会で共有し、社会への発信を開始します。

＜取り組む課題＞

A)地域情報の共有と社会へ向けての発信

・コロナ後の新しい生活に向けての住宅のあり方の提案

・地域の社会的役割を担う建築家像の共有と発信

・大学、建築系専門学校等での建築家教育推進、将来の雇用を踏まえた学生との関わり強化

・会員作品、活動共有、コミュニケーションの場づくり

B)地域建築設計事務所の業務環境改善

・小規模建築における業務報酬の改善

・無償提案慣例化の解消

・スタッフ人材育成（web セミナー等を利用した学ぶ機会の情報提供）

C)法規制の改善

・現行法と現状の矛盾点把握と解消に向けての働きかけ

・地域の条例による緩和と規制の把握

5）広報委員会

1. 会員への情報発信について、JIA MAGAZINE をその中心に据え、会員や支部・地域会の活動状況に加え、COVID-19 禍における建築家への影響等下記に示す記事を掲載しました。
   - ・COVID-19 が都市・建築及び我々の働き方に与える影響について会員等へのアンケート調査結果を掲載。また、国外における影響等についても海外在住者へのインタービューを通してその実態を浮き彫りにしました。
   - ・各支部におけるオンラインでの活動状況の連載を開始。
   - ・常設委員会委員長、全国会議議長へのインタービュー記事の連載開始。
   - ・「スタジオ拝見　大学で教える建築家の建築家教育」と題して大学で教えている建築家の研究室を紹介する連載の開始。
2. 社会に向けた発信については、JIA MAGAZINE のホームページ公開が有効であると考え、その実現に向けて委員会内で意見をまとめ理事会に上申。引き続き来期の実現に向けて取り組んでいきます。
3. HP については、費用の捻出も含め改訂のための検討を継続して行いました。

6）教育委員会

当委員会は、教育プログラムに関する活動を担当しています。会員と将来の会員候補である学生への教育活動の活性化や、JIA の教育プログラムの全国的なプラットフォームである「JIA スクール」の立ち上げなどが現在の主要な議題です。それらを踏まえて、各スクールやセミナーの活動を行う教育担当と、CPD プログラムの活動を行う CPD 担当を中心に、教育ではオープンデスク、大学院インターンシップなどの活動を行っています。

しかし、2020 年度はコロナ対策のため多くの活動を延期や中断せざるを得ませんでした。社会情勢が回復後、速やかに従来の活動を再開する予定です。

7）表彰委員会

表彰委員会では、例年通り、日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25 年賞、環境建築賞を実施しました。コロナ禍の中、実施の可否について委員会内で議論を重ね、また十分な対策を取り、無事どの賞も審査を終えることができました。環境建築賞は、新たに環境大賞を選出しました。応募数は全般的に増加しています。審査等では一部オンラインを活用し、そのメリットもわかり、今後に生かす予定です。検討

事項となっている、各賞の審査、表彰式等の日程や方法の見直しは、コロナがおさまるまで保留となっています。

8）国際委員会

国際委員会の 2020 年度の主な活動は下記の通りです。

Covid19 のパンデミックのため、例年行われている国際会議（ARCASIA、UIA、ASA 等）が軒並み中止されたことにより、出張による国際活動がないという年であったが、WEB を活用した下記の活動を行いました。

1.越境建築家ウェビナーシリーズ

海外において活動している建築家による全 8 回のウェビナー。「海外での活動」と「建築家の職域を超えた活動」をテーマにお話をいただきました。また、その講演内容を JIA マガジンに寄稿いただいています。

2.JIA 国際委員会の HP 立ち上げ

国際委員会の活動の広報のために HP を立ち上げました。

3.Covid-19 関連

UIA の特設サイトにて日本の Covid-19 への対策等を紹介する記事を寄稿。JIA の HP にも Covid-19 情報ハブのサイトを設立。

4.WEB による委員会出席等

UIA と ARCASIA の各種委員会や RIBA が行っている Webinar への参加。

9）CPD 評議会

毎月 1 回 CPD プログラムの認定審査を行う評議会を開催し、その間にプログラムの開催日が次回委員会より前のものの審査について、メール審査を計 12 回行い、今年度全体で、新規プロバイダーの 4 件の認定と合わせ、合計 1,300 余件のプログラムを認定しました。

昨年度の 1600 件から減少しており、コロナ対策も視野に、CPD プログラム作成に向けたメッセージを JIA MAGAZINE381 号にて発信しました。WEB プログラムでの認定申請は徐々に増加してきており、今後も広く CPD の浸透を図っていきたいと考えています。

## 2. 必要時に立ち上げる委員会

1）選挙管理委員会

2020 年 9 月 24 日開催の第 1 回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定し、10 月 15 日に第 1 回告示を行いました。11 月 26 日の立候補締切り日までに理事候補者、監事候補者とも候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第 2 回告示を 12 月 15 日に行いました。候補者等については前述の「Ⅴ　本部役員候補者選挙」に記載しています。

2）名誉会員選考委員会

2020 年度通常総会に推挙する名誉会員について、5 月 20 日に委員会を開催し、支部推薦 2 名、海外推薦 1 名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】　竹原義二会員（近畿支部）

日比生正会員（九州支部）

【海外推薦】　ジェーン・フレドリック氏(AIA 会長)

## 3. 特別委員会

### 1）BIM 特別委員会

2020 年度は建築設計三会（日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、当協会）それぞれの BIM 委員会共同で「設計 BIM ワークフローガイドライン　建築設計三会　提言」を纏め、2021 年 3 月 25 日の第 6 回建築 BIM 推進会議にて概略を報告。同ガイドランは国土交通省「建築 BIM 推進会議 HP」の「関連団体の取り組み」に掲載されています。

同ガイドラインは BIM 業務のワークフローと必要なルールについて、1 つの標準例を纏めたものです。従来のワークフローの標準は、告示 98 号による「標準業務（業務内容と成果図書）」で規定されています。同ガイドラインは告示 98 号の標準業務に BIM 業務ならではのルールを加える形で纏めています。

現在、同ガイドラインについては関連各団体からの意見徴取を行っており、それら意見も参考に修正を加え、2021 年夏を目途に「設計 BIM ワークフローガイドライン　建築設計三会（初版）」として発行予定です。

### 2）JIA・SDGs 建築フォーラム実行委員会

足掛け 2 年準備の末、2021 年 6 月 25 日に開催予定の JIA・SDGs 建築フォーラムの実行がミッションです。国連大学会議場が会場予定でしたがコロナ禍で大学施設が閉鎖中のため、JIA 会館から完全リモートで開催します。国連広報センター（UNIC）、国連人間居住計画（UN-Habitat）、SDGs に関する知識人並びに建築家を交えて議論を交わし、このフォーラムをステップとして、JIA 活動の更なる発展に寄与する事を目的とします。

## 4. 全国会議

### 1）JIA環境会議

2020 年度はコロナ禍で活動が制限されたが、リモート会議は支部委員の出席率も高く昨年度に引き続き SDGs を中心に据え活発な議論が行われました。環境建築賞は JIA 環境大賞が創設されて、脱炭素社会に向けた建築家の新たな役割とそれを支える思想に踏み込むことができました。伝統的工法のすまい WG 等の既存の各 WG は研究活動を継続しました。新たに気候変動対応 WG と超・環境配慮 WG が立ち上がり活動を始めました。超・環境配慮 WG は建築の長寿命化の検討と実践を目的とし、東京都の葛西臨海水族園の建替え計画に対し、JIA が葛西臨海公園による環境回復を都の大きな成果であり都民の財産と捉え行った見直しの提言をサポートしています。木材利用推進セミナーは、3/22 に「天空の木造」を開催し木造超高層を議論しました。

### 2）JIA建築相談会議

2020 年度は、コロナ禍のなか全体会議そのものも開催延期を余儀なくされました。

それでも各支部、各地域会でそれぞれ状況のなか、模索しながら活動されているところです。

### 3）JIA保存再生会議

本年度は、大会以外にもリアルで集まる場を設けたいという議論をしていたところですが、コロナ禍の中、

web での定例会開催に留めざるを得ませんでした。本会議の目指す、地域での多様な保存・再生活動の情報の集約、意見交換をより深く、積極的に展開するには、やはり、実際に事例を見学するなどしながらの議論の積み重ねが大切と思われるだけに、一日でも早いコロナ禍の収束を願うばかりです。また、本年度、JIA・SDGs 建築フォーラム実行委員会からの要請により、他の会議体（災害対策、環境、まちづくり）とのフォーラムに向けての議論に参加し、本年 3 月には、プレフォーラムも開催されました。ここでの議論の中で、「保存・再生」からの視点の情報発信の大切さを、改めて感じさせられました。修復塾や近現代調査 WG、再生部会等とも連携し、引き続き全国組織である JIA の保存・再生に関するプラットフォームとしての機能を果たしてゆきます。

＜ワーキンググループ活動＞

①JIA文化財修復塾 WG

建築文化遺産の保存活用の担い手養成を目的とし、委員会の毎月開催と事業運営をしています。今年度はコロナ禍にありながら WEB 座学講座は影響なく実施。現地講座は関東甲信越、近畿、四国の各支部で開催。ビデオ収録と WEB 配信講座を実施し、年度 13 名、総計 106 名の修了者を輩出。2 月の福島県沖地震へも関係機関と協力し文化財ドクターの派遣を実施。また、修了者サロンの開催や呼称「ヘリテージ・アーキテクト」の議論を始めています。

4)JIAまちづくり会議

JIA まちづくり会議は、全国 10 支部とまちづくり活動に関する情報交換を行っています。具体的には、「良質な建築・街づくり萌芽事例シート」等により、各支部の先進的なまちづくり活動等の共有を行っています。2020 年度は SDGsフォーラムに向けて全国 4 会議で議論を進め、まちづくり会議では各支部でのまちづくり活動を SDGsの目標、ターゲットに紐づけて分析を行いました。今までなかった各会議との連携も必要と感じました。

5)JIA災害対策会議

JIA 災害対策会議では、発災後の対応もさることながら、多種多様な災害が頻発している昨今の状況に鑑みて、常日頃の情報交換によるスピーディな連携に重点をおく方向に転換しようとしています。JIA の BCP 最新版の作成、ネットワークの完成を過去の会議での実績を引き継ぐ形で進めているほか、一般の方や行政からもアクセスできるホームページや、各支部での過去の活動を蓄積、開示、更新していくためのデータベースの整備もすすめています。

6)その他の活動

全国卒業設計コンクール実行委員会

2020 年 10 月 3 日、JIA 館建築家クラブに審査委員と運営担当の実行委員のみ集合し初の試みとなる Web 開催にて全国学生卒業設計コンクールを開催しました。

全国から選抜された優秀作品 50 点を審査し金賞 1 作品、銀賞 1 作品、銅賞 1 作品、審査委員特別賞 5 作品を決定しました。

## Ⅶ　支部長報告

### 1．北海道支部（小西彦仁支部長）

2020 年度はコロナ禍の影響を多大に受けまして、計画した事業計画通りには行えなかったのが実情です。総会も書面による決議により行われました。その中で新体制のもと幹事会及びグループ長会議やセミナー等の事業も Web オンラインにより開催して参りました。赤レンガ賞・建築学会作品発表会の協力など現在出来ることを実行していきました。建築大賞や建築展においても様子を見ながら準備を進めているところです。活動が制限され、もどかしさがありますが、力を蓄える準備期間と捉えたいと思います。

［本年度の主な事業活動］

1）JIA・テスクチャレンジ設計コンペの開催（応募 67 作品・オンライン審査）

2）北海道赤レンガ建築賞の共催、日本建築学会北海道支部作品発表会・高校生デザインコンクールへの協力。

3）南幌町みどり野きた住まいるビレッジ業務委託を継続、北海道建築設計会議への参加（年間 10 回開催）。

4）JIA ケンバイセミナーをオンラインで開催。

5）支部の活動報告と会員・協力会員の紹介を行い、より相互の理解を深める資料 HOKKAIDO ARCHITECTS の作成。

6）北海道支部の活動や情報を、より手軽に知ってもらえるために支部ブログをリニューアル。

7）Asahikawa School vol.48、vol.49 の開催。

8）法人協力会主催の合同セミナーをオンラインで開催。

9）卒後設計コンクールの開催（オンライン審査 You tube 配信）。

### 2．東北支部（進藤勝人支部長）

2020 年度は、世界中の人々が新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けた年となりました。新型コロナウィルスの一日も早い収束と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

JIA 東北支部の活動も新型コロナウィルスの影響を受け、公益事業は第 24 回 JIA 東北学生賞と第 1 回 JIA 東北建築大賞 2020 の開催のみとなりました。いずれも感染症対策を駆使した、無観客やリモートを利用した開催となりました。

第 24 回 JIA 東北学生賞は、応募学生の完全リモートでのプレゼン形式、結果や講評も審査員が迅速に執筆し講評という手法を用い、初の試みながら、学生や会にとって将来に期待の持てる審査会となりました。

昨年度創設した第 1 回目 JIA 東北建築大賞 2020 一次審査では、建築家で名古屋造形大学学長の山本理顕氏を審査員長、建築史家で東海大学教授 渡邉研司氏を審査員に招き、コロナ禍にもかかわらず 46 もの作品応募がありました。会場とリモート両方の応募者によるプレゼン形式をとり、参加者の熱意を感じられる大会となりました。第二次審査は新型コロナウィルスの影響を受け、日程調整が難航しておりましたが、4 月下旬に開催することができました。コロナウイルス感染症の対策を講じながら、3 日間の現地審査を行い、無事建築大賞を決めることが出来ました。

2021 年度は、東日本大震災から 10 年目を迎えます。コロナウイルス感染症が早く終息し、様々な活動が行えるよう願っている所です。

## ３. 関東甲信越支部（慶野正司支部長）

コロナ騒動による困惑のなかスタートした 2020 年度。就任直後に感染回避のための支部活動「ガイドライン」の作成、またオンラインアカウントの取得とノウハウの共有を始め、一年を通してコロナ禍における活動のあり方を模索して参りました。今では一足飛びに進んだオンライン化のメリットも経験し今後の活動形態を見据えながら活動しております。

2020 年度の支部活動テーマは以下の通りです。

1. JIA の社会的プレゼンスの拡充
2. 会員サービスの拡充
3. 関連団体等との連携促進
4. 本部活動との連携強化
5. 地域会活動・委員会活動の活性と連携推進
6. 持続可能な会の運営推進

でスタートしコロナ禍により次のテーマ

7. With コロナ社会における JIA 活動のあり方の検討

を優先度高く追加設定いたしました。

活動状況は、支部内の 23 地域会、17 委員会、12 部会、2 支部事業の会議体においてコロナ禍で中止・延期を余儀なくされた事業も数ある中、万全な感染防止対策を図り、またオンライン開催などの工夫しながら活動して参りました。特に支部内の情報共有、会員サービスや社会発信に注力し、各会議体における意欲的な活動は年度計画の通りとはいかないまでも数々の成果をあげて参りました。

支部全体の活動においては、支部の重要な役割として各活動のプラットフォームの整備であるとする方針から常任幹事会内にテーマ毎の WG を組織し具体的に展開いたしました。

その一つに、委員会・地域会の情報共有・連携強化を目的に「委員長・地域サミット合同会議」や「地域サミット」を開催し支部活動全般や各会議体の課題について共有いたしました。また初の試みとして各委員会活動との相互理解を深めることを目的としオンラインにより 16 委員会を訪問する「委員会懇談会」を実施して参りました。これらは効果的な活動展開に向けて貴重な機会となり今後の支部運営に活かして参ります。

また、やはり初の試みとして交流委員会主催により 3 回開催した「法人協力会員・オンライン技術セミナー」は、正会員、法人協力会員共に win-win の関係づくりが目的であり継続していく期待を高めました。

そして、特に本年度は本部事業で行った困窮学生支援事業により多くの学生会員が誕生したことを契機に今まで希薄な関係であった学生会員へのフォローを強化いたしました。学生にフォーカスした活動として入会手続きの簡素化も図り、拡大を目指す学生会員への積極的な情報提供、且つ意識の高い学生の主体的活動を促す組織づくりに着手いたしました。建築家職能の将来を担う若手や学生会員の活性化は不可欠です。JIA の未来を託すためにも学生会員へのコミットを今後も重点課題として発展させて参ります。

本年度は如何に活動するかなど支部運営に注力した一年でしたが、今後も引続きこの激動の一年の経験を活かし新しい時代に呼応した新しい JIA 活動のあり方を模索して参ります。

## ４. 東海支部（水野豊秋支部長）

2020 年度は、未曾有の災害に見舞われた年となり、コロナウイルスの感染拡大により、通常総会の集合形式が見送られ、書面評決での開催となるスタートとなりました。各種継続事業の 25 回続いた「卒業設計コンクール」の復活、第 8 回目を迎えた「JIA東海住宅建築賞」、37 回目を迎えた「JIA東海支部設計競技」、な

ど全て中止となり、「ゴールデンキューブ賞 2019/ 2020」の出版事業も、UIA 大会での選考が中止となり、行うことができませんでした。そんな中唯一発行形態を見直した機関紙「ARCHITECT」の発行のみ行うことができました。また本年度は支部役員会をはじめ各委員会もほとんどが、リモート開催を余儀なくされ、戸惑うことも多く、スムーズな運営ができたかどうか疑問・改良点も多々ありましたが、今後は対面形式での良さと、リモートでの利便性の両立によるメリットを享受できるよう、機材の充実をしながら推進を図っていきます。

1)会報誌「ARCHITECT」の編集・発行

第 379 号(2020.04)から第 378(2021.03)まで毎月 1 日発行しました。

2)「登録建築家」について

12 月 2 日に内野輝明本部職能・資格制度委員長による「『登録建築家』建築家資格制度を考える」、を WEB セミナーとして開催し、制度の内容・これまでの経緯についてのレクチャーと、意見交換が行われました。

3)「災害対策」について

コロナ禍の影響もあり、三重県と防災協定を締結する話が進捗しませんでしたが、協議結果、まず「被害認定調査」「建築相談」「防災教育」を中心に協定を締結し、その後、協定内容を広げて行くことになりました。

4)「SDGs」について

今年度は、川合健二邸の保存再生活用への協力を目指して、本部の事業補助金の申請が認められスタートが切られましたが、進捗はしていません。延期となった全国大会で SDGs をテーマとした大会で、行動の指針を学び、具現化を進めます。

5)2022 年全国大会について

2022 年には全国大会を東海支部が担当します、本年度はその準備委員会を発足し、開催形式の見直しや、骨子の作成からスタートしました。

## 5. 北陸支部(髙屋利行支部長)

支部事業としての支部大会が開催できませんでした。コロナ禍の影響がここまで活動の妨げになるとは思いませんでした。

また、2020 年度に限り、3 名もの正会員が逝去されましたが誠に残念です。

次年度に向けて新会員の勧誘に努めたいところです。

[本年度の主な活動]

1)総会:新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み 2020 年 5 月 16 日に予定しておりました 2020 年度通常総会は中止とし、書面での表決としました。書面表決 73 名・委任状 8 通、合計 81 名の回答があり、正会員数 124 名の 5 分の 1 以上となり、規約定足数を満たしたので本総会は、成立しました。

2)JIA 学生卒業設計コンクール北陸支部審査会

【日時】6 月 13 日(土)【場所】Zoom ミーティングルーム【対象者】(11 名):福井大学 2 名、金沢工業大学 2 名、石川工業高等専門学校 2 名、福井工業大学 2 名、富山大学 2 名、金沢美術工芸大 1 名【審査員】委員長塚田修大氏、委員長百田有希氏【委員】伊藤瑞貴(福井)、山田憲子(石川)、種昂哲(富山)。審査会の様子を youtube にて公開しました。

## ６. 近畿支部（津田茂支部長）

昨年 6 月に支部長に就任させて頂いてから、とにかく開かれた JIA を目指し、活動や会議の内容など、会員向けや、対外的にも積極的な情報発信を心掛けてやって参りました。特に、このコロナ禍で人と会えず、関係性が薄れていく中で、情報を発信し続ける事の大切さを意識した一年となりました。そんな様々な制約の中、各地域会や部会では、アイディアを凝らし、コロナ禍ならではの多くのイベントを開催し、また違った活動形態の可能性を見いだせた一年でもありました。コロナ前とコロナ後の社会では、団体のあり方そのものまでが変わるのではないかと思う反面、新たな在り方を探りながら、引き続き、トライアンドエラーを繰り返しつつ建築家という職能をどのように発信し続けるのかを考えたいと思います。また、残念ながら理事会メンバーとは、とうとう一度も会えずに終わってしまった一年ではございましたが、次年度は是非皆様とお会い出来る機会があることを切に願います。

この1年の主な活動内容は以下の通りです。

・卒計コンクールのオンライン開催

オンライン開催の難しさを感じたイベントとなりましたが、そんな中でも素晴らしい作品が選ばれたこと。また受賞者を中心として、その後の学生委員会、Hazama Lab.設立に繋がったことは、大変有意義だったと思います。

・各首長を訪問し JIA の活動について説明実施（芦屋市長、西宮市長、池田市長、寝屋川市長）

芦屋市とは、その後防災担当者と意見交換を行いました。また、寝屋川市からは、こちらから提案した都市景観賞の設立が決定したと連絡を頂き、今年度第1回都市景観賞が開催される運びとなりました。この実績を元に、他の市町村にも働きかけていき、都市景観の向上に役立てればと思います。

・令和 2 年 7 月豪雨に関する支援活動支援実施

九州支部に支援金を送らせて頂き、その後、九州支部より、資金の活用方法のご報告を、お礼の手紙と共に頂きました。返って気を遣わせてしまい、支援方法の難しさを痛感致しました。

・寝屋川空き家流通推進プラットフォームに関する協定を締結

寝屋川市内に存在する活用可能な空き家を再生する際のアイディアを求められた際に JIA として協力するというもので、今後の展開が楽しみな協定です。

・各事業、勉強会の実施（まちづくりセミナー、BIM 実務セミナー、弁護士による勉強会、建築物省エネ法改正について）

各地域会、部会では、行動制限の中で様々な試みを行いながら、多くのイベントを開催して頂きました。

・支部長通信、カタリスト、メールマガジンの発行及び支部 HP のリニューアル

開かれた JIA を目指し、支部長通信を毎月発行致しました。人の関係性が薄れる中で、正会員と協力会員の接点を増やすこと、協力会員の焦点を当て、正会員に協力会員のメンバーをもっと知ってもらうことを目的として、カタリストという対談形式の座を設け、メルマガ等で定期的に発信して参りました。支部 HP のリニューアルを図り、各地域会間で情報発信の差が出ないように修正しました。また新たに広報誌、table を発刊する運びとなりました。こういう時代だからこそ、紙媒体の情報発信手段も重要なんだと再認識出来るきっかけとなれば幸いです。

・第 13 回関西建築家新人賞の実施

コロナ禍でも快く現地審査を引き受けて頂けた施主の方々に感謝致します。そのおかげで、今年度も延期や中止をすることなく、新人賞を選ぶことが出来たこと。2名の優秀な若手建築家が選ばれたことを嬉しく思います。

・ラーニングサロンの開催

井上前支部長から始められたラーニングサロンは、「建築家を議論する」大切な場となっていると思い、引き続き支部役員会後に開催を致しました。オンラインだったということもあり、関西エリアに限らず、東京の方にもお声がけし、色んな方面で活躍する様々な方にレクチャーをして頂きました。

・オンライン対応

Peatix の導入、Zoom アカウントの取得、Webiner 対応と、支部や地域会の活動が止まらないよう、会員サポートの一環として、早々に導入し、活用して参りました。生憎 Peatix はまだ活用実績を作れていませんが、プラットフォームは整っているので、次年度は積極的に活用し、多少なりとも財源の確保に努めたいと思います。

・新規委員会の設立

学生委員会（通称 Hazama Lab.）、マスターズ委員会を新たに設立しました。これまで学生会員の活躍の場が無かったので、ひとまずやってみたいと思います。マスターズは、若手の本業が忙しい中で、中々活動時間が作れないのであれば、時間的にも少し余裕が出始めているマスターズの面々で何か活動をしてはという発想の元、立ち上げた委員会で、両委員会共に今後の活躍が非常に楽しみです。

## 7. 中国支部（武田賢治支部長）

中国支部では例年通りの支部活動を予定していたが、昨年3月頃から顕在化した COVID-19 の影響により、対応策を模索することから始めざるを得なかった。まずは緊急時の対応として支部の意思決定機関である支部役員会をオンラインで開催できるようにし、続いて新型コロナの状況に合せ各事業の開催を模索してきた。例年開催してきた「JIA 中国建築大賞」「海外研修ツアー」は中止、「JIA 中国支部建築家大会」「全国学生卒業設計コンクール参加支援」は実施した。各地域会の活動はそれぞれに異なっているが、新型コロナ対策を行ったうえでいくつかの事業は予定通り実施。主な事業の概要は以下の通りである。

［本年度の主な事業活動］

1）「JIA 中国支部建築家大会 IN 米子2020」

「菊竹清訓 ホテル東光園誕生の舞台裏－遠藤勝勧氏に聞く」と題し、遠藤勝勧氏と古谷誠章氏の対談形式で、令和 3 年 2 月 23 日に鳥取県米子市で開催。同時オンライン配信。

2）「全国学生卒業設計コンクールへの出品参加支援」

「中国支部学生卒業設計コンクール 2021」「JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2021」から 5 点を「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2021」へ推薦。

3）広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携協力

「ひろしまたてものがたりフェスタ 2020」への開催協力。

4）建築文化セミナー「持続可能な地域づくりと住宅 vol.1」「同 vol.2」

「SDGs を活かす地域づくり」と題し山陽学園大学白井信夫による講演会開催。

5）第 27 回ワンデーエクササイズ開催（共催）

岡山県内の学生を対象に建築アイデアコンペを開催。

6）「子ども建築カレッジ第 1 回」～ぼくたちの家計画～建築家から学ぶ4日間

建築家の指導のもと、現存建物を実測図面作成ののち、子供たちが夢に描く家を参加者自らがプラン検討、図面作成、模型制作を体験。

7）親子で楽しもう 木でモノづくり vol.2

木材需要拡大の一環として、「コマづくり」「鉛筆づくり」「丸太切り」等を開催。

8）建物見学会「旧日生町庁舎」

2019 年度 DOCOMOMO JAPAN に選定された庁舎は RC 造のV字型構造体と折版型屋根で構成された建物で、選定プレート贈呈式に合せ見学会を開催。

9）災害時における被災住宅の建築相談に関する協定

JIA 中国支部岡山地域会は建築他団体と共に岡山県と被災時相談対応の協定を締結。

10）「住まいの情報プラザ」開催。

広島県「ひろしま住生活月間実行委員会」に参画し、ちゅーピー住宅展示場にて開催。

11）「おとなとこどもの建築術～建築のエッセンスとは何か～」と題した講演会開催。

島根大学の千代章一郎先生を招いて開催。

## 8. 四国支部（武智和臣支部長）

2020 年度の四国支部及び 4 県それぞれの地域会の主な活動を挙げます。

香川地域会は近代モダニズム建築(丹下船の体育館)の保存活動、坂出商店街再生支援。愛媛地域会は、伝統建築群の調査、まちづくりの支援、子ども建築学校を通して子どもへの建築教育。徳島地域会は四国建築賞一次審査会、支部大会の開催検討（延期）。Archi café の定期的開催。高知地域会は高知県建築行政についての勉強会、大学高専卒業設計コンクール等々です。各県、時世に合わせた特色のある活動を行いました。

［本年度の主な事業活動］

1）第 4 回 JIA 四国建築賞 2020

【一次審査】2020/7/ 28 シビックセンター【現地審査】2020/9/ 3～9/ 5【応募数】一般建築 15 作品、住宅 7 作品

2）卒業設計コンクール 2021/3/ 7 記念講演会【講師】幸家太郎氏 【テーマ】まちのギャップ(空き/切断面)補修からリノベーションへ

3）総会 2020 年度通常総会 5/25

4）建築家資格制度実務委員会建築家資格制度セミナー2020/4/10

5）支部会計監査 2021/4/22

6）委託事業

建築家が考える木造建築(非住宅編)冊子作成業務 （徳島県木材協同組合連合会）

7）宇和島市津島町・岩松・小西邸改修工事 現地見学会+まち並み見学 2020/11/ 19 ・ 20

【講演会】後藤治工学院教授、曲田清維愛媛大学名誉教授、宮本慎宏香川大学准教授

8）第 9 回こどもけんちく学校、北浜公園に行きたくなる仕掛けをつくる/八幡浜市 2020/ 10/ 25

9）愛媛県内高校生建築競技設計後援 審査会 2021/ 2/ 4

10）令和 2 年度近現代建造物緊急重点調査について報告 及び JIA 修復塾について

11） 坂出アートストリート賑わい創出支援事業 2020/11/ 17～12/ 27

【会場】坂出坂出元町商店街、本通り商店街、サンロード商店街各所【タイトル】シャッターオープンプロジェクト

12） 第 1 回 見学会 2020/11/15【会場】本楽時 徳島県美馬市穴吹町三島小島 12

13） 鳴門市文化会館周辺の保育園新築計画に伴う景観問題について 検討会 2020/4/22

14） 徳島 ArchiCafe（毎月 1 回開催）

## ９. 九州支部（松山将勝支部長）

2020 年度の通常総会にて九州支部長を拝命し新体制がスタート致しました。予定していた事業は中止や延期を余儀なくされ試行錯誤の一年でしたが、こうした状況下でも未来に向けて新たな可能性も見えてきました。これまで集合形式を前提とした事業の実行性は、オンラインでもある程度のレベルまで実現できる事を学び、事業予算の圧縮や効率化という課題解決の具体性が高まってきた事も、ひとつの成果であったと言えます。また、九州支部は遠隔という地理的問題から JIA 活動になかなか参加できなかった会員や離島の会員も多く所属されています。そうした距離の問題にもトライできる環境が整ってきた期待感も高まっています。来年度はコロナ禍で経験したさまざまなアプローチを活かして、未来へ向けての挑戦を続けて参ります。

［本年度の主な事業活動］

1)九州支部新ホームページ開設：2020 年 5 月

長年の課題であった九州支部 8 地域会のホームページの一元化を実現。

支部や地域会のイベント情報や活動報告の活発化を図ると同時に、九州全域の建築関連情報を提供する場として成長する事を目標に、Facebook の活用など SNS の時代に対応した新たな取り組みが始動。

2)九州支部会員広報誌「BULLETIN」発行：2020 年 6 月、9 月、12 月、3 月

会員への広報誌ブルテンを一新し、支部や地域会の事業報告から会員ひとりひとりに焦点をあてた企画など、会員サービスの向上を促進。来年度もさらに充実度を図り、特に若手建築家の入会促進につながる企画を立案中。

3)デザインレビュー2021：2021 年 3 月

今年で 26 年目を迎えた学生実行委員会によるデザインレビューは長年、九州支部が運営をサポートしている。本年度は昨年に続きオンラインにて開催し、全国各地から 258 作品の応募があり、予選を通過した 62 作品にて公開審査を実施。本選に残った 62 名の学生と、5 名の建築家のクリティークによって対面に劣らない白熱した議論が展開されました。

4)デザインレビュー高校生レポーター事業：2021 年 3 月

高校生を対象とした建築教育支援活動の一環として昨年度からスタートした事業。

本年度は九州全域より 25 名の高校生がリモートで参加。現役の建築家と学生が繰り広げる議論の場は、とても刺激的な体験であったと多くの感想文が寄せられました。また、建築家という職業がある事を若い世代に伝えていく啓蒙活動も私たちの責務と捉え、今後もこうした活動を積極的に継続していきたい。

## １０. 沖縄支部（伊良波朝義支部長）

2020 年度は第 7 代支部長就任 2 年目となり、新しい執行部体制にも慣れ、これまで継続してきた事業や新規事業も含め、活発な公益事業を計画して参りましたが、新型コロナウイルスの影響により、一部事業の延期や中止とせざるを得なくなり、心残りとなる一年となりました。また、11 月 4～6 日の会期で準備して参りました JIA 建築家大会 2021 沖縄は、安全・安心な環境が整わないことから延期と致しました。

その様な中、多くの学生会員の入会や JIA25 年賞受賞、25 年賞登録など明るいニュースもあり、コロナ禍の中 JIA の建築家が社会に向けてどのように行動を起こさなければならないのか気付きの得られた年となりました。

今後も社会のニーズに柔軟に応え、地域に根ざした事業を展開し、社会に信頼され頼られる士となるよう、

また若手育成も積極的に展開して参りたいと思います。

［本年度の主な事業活動］

1）第 5 期沖縄未来建築塾：年 8 回開催（コロナ禍により 3 回で終了）

U-45 の若手設計者や学生が対象　県内外より講師を招聘

2）第 2 期住まいづくりカルチャースクール：コロナ禍により中止

ストック社会を見据え、家づくりの計画からメンテナンスまでを会員や様々な分野の専門家を交えて 5 回シリーズで開催

3）国際交流事業：コロナ禍により中止

大学や地元の協会・建築家との交流、建築視察により将来的な海外での足場づくり

4）建築家展（展示、シンポジウム、講演会、ワークショップ等）：コロナ禍により中止

全国大会と同時開催を予定していたが中止のため、次年度開催について検討予定

5）第 24 回卒業設計作品選奨公開審査：通年事業

専門・専修学校部門 6 点、大学部門 4 点、応募総数 10 点

6）第 9 回ティーダフラッグス 2020 公開審査：県主催、建築設計四会との共催

本部港旅客ターミナル屋根付き利便施設の審査委員として参加、応募総数 43 作品

7）第 7 回沖縄建築賞：建築設計三会との共催

開催時期変更のため実行委員会を中心に応募要項等準備中